

道博協ニュース 第127号 (2020年10月3日発行)

士別市での北海道博物館大会を中止し、今年度総会を書面で開催しました

6月30日(火)と7月1日(水)に士別市で開催を予定していた第59回北海道博物館大会は、新型コロナウイルスの感染状況をにらみながら準備を進めていましたが、残念ながら開催を中止することとしました。

士別大会の中止については、会場の確保やテーマの選定、エクスカージョンの計画など準備にあたって下さっていた士別市立博物館の皆さんには大きなご負担をおかけしました。また、事務局から大会中止の案内を差し上げるのが遅く、出張予定や宿泊のキャンセルに悩まれた会員の方も少なくなかったかと思えます。ご迷惑をおかけしましたことを、お詫びします。

大会中止の一方で、今年度の活動計画などを議論する当協会の総会は、書面を用いて開催しました。

6月26日に総会資料を郵送。7月10日までに質問・意見を受け付けて、17日に郵便とメーリングリストで回答を送付。28日に書面議決書の提出を締め切り、その集計結果を各会員に送付して、総会を終了しました。

こうした手順はあらかじめ計画した通りにほぼ進めることができたのですが、事務局としては例年とは異なる手順だったために一つ一つの作業を手探りで進めていたように思います。書面議決書を返送するファックス番号に誤記があるというミスをした点は、大いに反省しています(誤記した番号は、現在使われていないものだったことには救われました)。

この総会で、2件の報告と4件の議案に承認をいただきました。それを足がかりに今年度の活動を展開していくことになります。研修会や役員会をどういう形式で開くかなどについては、引き続き感染症対策を意識しなければなりません、感染症に負けずに、ということも同時に考えたいところです。

お忙しいなか、議案を検討し、書面議決書を送っていただいたことに、感謝申し上げます。

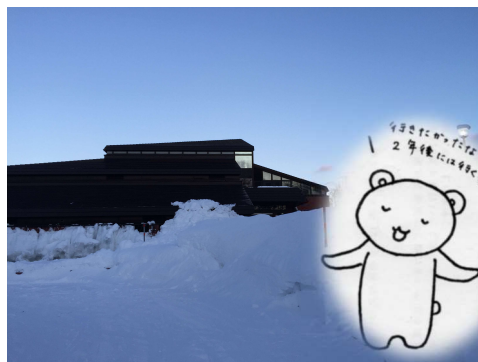
また、ご質問やご意見を寄せてくださった方々、ありがとうございました。

書面での総会を無事に終了したことに安心しつつも、年に一度の大会が、道博協にとってどれだけ大切なものであったかを痛感させられます。全道各地から博物館人が集まって顔を合わせ、議論する機会は、他にそうはありません。総会と大会そのものが持つ交流の場としての意義はもちろんのこと、大会の休み時間や懇親会の場で情報や意見を交換したり、悩みを語り合ったりすることは、業務に追われがちな日常を、少し離れて眺めることにもつながっていきそうです。エクスカージョンは、開催地域やその周辺の博物館活動や文化財について直接知る貴重な機会になっていたはずです。

長年の活動を表彰することを決定していた二団体の方に、多くの会員が拍手を送るなかで表彰式を行えなかったことも、非常に残念なことでした。ポスター発表を予定されていた個人会員の方や、最新機器などのデモンストレーションを予定されていた賛助会員の企業の方には、年に一度の機会を提供できずじまったという点も、申し訳なく思います。

今回の総会では、来年、2021年度の大会は白老町に開設された国立アイヌ民族博物館で、その翌年2022年度の大会は士別市で開催することが承認されました。充実した大会を実現できるように。

(事務局 山田 伸一)



2020年度北海道博物館協会表彰 表彰団体紹介

大会中止より残念ながら表彰式開催も見送ることとなりました。それに伴い、今回道博協ニュースにて今年度表彰団体の活動の様子をご紹介します。表彰団体の皆様、おめでとうございます！

網走監獄友の会ボランティア部 様

博物館網走監獄友の会活動

を振り返って

北海道博物館協会より団体表彰の受賞にあたり網走監獄友の会について紹介させていただきます。

平成20年6月に博物館網走監獄開館25周年を記念し友の会が設立されました。その目的は博物館活動への協力と、会員が網走監獄の歴史について研修を深め会員相互の親睦を図ることでした。

あくまでも自主的な参加を基本に活動が続けて参りました。現在個人会員55名団体会員10団体が友の会に入会しています。友の会発足から13年目を迎えることになりました。私は友の会会長として会の運営に携わっています。入会のきっかけは、定年退職し、次の目標をと考えていた時に何か地元の事を知りたい、学びたい、勉強会もある事から出席、講演会「北海道開拓と網走監獄」で聞いた内容は、網走で生活しながら網走の歴史や文化について無知である事に気づかされ友の会で学ぶことに喜びを感じ活動することになったのです。その年の7月には第1回友の会研修旅行「中央道路を訪ねる旅」が実施され、網走刑務所から北見峠まで歴史の跡を辿る貴重な体験をしました。その後、標茶、月形、三笠、帯広の北海道集治監を訪ねる研修旅行の実施、この研修旅行が「会員の対話場所」となり、博物館のボランティア活動を始めようと話が弾みました。しかし、会員全員がボランティアは経験不足で、今野学芸員の計らいで、第6回の研修は「野外博物館とボランティアを学ぶ旅」が企画され北海道開拓の村、札幌芸術の森で活躍されているボランティア会員と直接交流させて頂き、博物館での解説、ボランティアの運営について学ばせてもらいました。

しかし私達友の会会員と、芸術の森や開拓の村のボランティアの方とは格段の差があります。「背伸びせず、今出来ることから進めましょう」と励まされました。網走監獄友の会の会員は高齢者が多く、専門知識も少ないだけに、まず中央道路開削慰霊碑の清掃、中央道路の起点桜並木の植樹から作業を始めることにしました。



(中央道路起点の桜植樹作業)

次に博物館のゴールデンウィークイベント並びに秋の収穫祭に友の会が運営スタッフとして紙芝居の上演や餅つき、神輿担ぎ、伝統遊具作りの講師として来館者をもてなしました。大勢の来館者から「楽しい。また来年も遊びに来ます」と声をかけられると疲れも忘れ対応しています。



平成28年に網走監獄の旧建造物8棟が国の重要文化財に指定され、今まで以上に文化資源を活用した観光拠点としての役割を担うため、ボランティアによる文化財建造物の解説作業も新たに始めました。解説の勉強会を始めてから4年も経っており、私達は何度となく今野学芸員に指導を仰ぎ、実際に現場と一緒に周ってもらいました。その甲斐あって、来館者からも解りやすい解説だと喜んでいただき好評です。ボランティア活動を通じて人に感謝され自らも達成感が得られ、まさに博物館のボランティア活動が会員の生涯学習の場となっています。現在新型コロナウイルス感染防止対策で博物館網走監獄も全ての催しが中止となっています。新しい見学スタイルが求められる中、ボランティア活動も従来のようにはできません。

しかし、微力ではありますが、友の会会員協力し今出来る事から始めたいと思っています。

最後に、このような名誉ある賞を頂き網走監獄友の会会員を代表して御礼申し上げます。

(博物館網走監獄友の会会長 太田博孝)

遊学館ボランティア 様

市民が主役となって輝く

～遊学館ボランティア～

2020年7月に開館15周年を迎えた釧路市こども遊学館は、全天候型の遊びと学びの場、道東地域の科学・宇宙教育の拠点として、工作ワークショップやおはなし会、サイエンスショー、プラネタリウムなど年間3000あまりの事業を展開し、これまでに153万人の来館者をお迎えしてきました。

これほど多くのお客様へ多彩な事業を提供し続けるには、事業を実施するマンパワーはもちろんのこと、きめ細かな来館者サービス、企画に必要な新鮮なアイデア、来館者ニーズの把握、事業に係る下準備作業などが不可欠です。

当館は、開館より市民協働・市民参加型の運営を掲げており、これまでにのべ2万4千人以上の市民が、遊学館をステージに活躍してきました。遊学館ボランティアとして、個々の幅広い知識や技術・経験を発揮し、多様な事業のほぼ全てに関わり、事業運営を支えてきました。

現在約170名が登録している遊学館ボランティアは、独立した団体ではなく、館が組織したボランティアグループです。このグループには、代表やリーダーなどの責任者はあえて置かず、組織をまとめる煩わしさを背負うことなく、全員が上下の無いフラットな関係で自由に活動できる体制にしています。また、興味関心がある活動を自由に選んで楽しむ、やりたくないことを押し付けられない、参加スケジュールもボランティア自身が決めることを大切にし、個々に自発的な活動を続けてきました。

子どもたちが集う場で、大人が楽しく活動し、こどもたちは生き生きと活動している大人の笑顔を見ながら、無我夢中になって遊び学んでいます。また、こどもたちの元気と笑顔から、ボランティアは次の活動の原動力をもらい、やりがい

感じて活動を続けているのだと感じています。

今後、当館に対する社会的ニーズはますます多様化すると予想されます。より幅広い年齢層に合わせた事業展開とアクセシビリティの強化、多言語等対応、マルチメディアを活用した科学教育普及活動の発信など、新たな取り組みにおいても、ボランティアの豊富な経験や、市民目線の柔軟な対応力が存分に発揮されることでしょう。きっと市民が主役となって輝いて活動する姿が、また遊学館の魅力となり、来館者が「楽しかった、また来たい」に繋がっていくのだと信じています。



▲年齢に応じた丁寧な工作指導が喜ばれている。



▲企画から制作、上演まで自主的に行う人形劇。



▲天体観測会では、望遠鏡の設置や解説でも活躍。
(釧路市こども遊学館 小笠原 忍)

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

進化し続ける

札幌オリンピックミュージアム

大通公園から見える札幌のシンボル・大倉山ジャンプ競技場。そのジャンプ台の麓に建つのが2000年に札幌ウィンタースポーツミュージアムとして建設され、2017年にリニューアルオープンした札幌オリンピックミュージアムである。

オリンピック開催都市としてのレガシーをより深く伝え、オリンピックの歴史や理念等について学べる場となること、札幌とウィンタースポーツの発展を伝え、ウィンタースポーツへの参加、学習機会を提供することを目的としている。1972年に開催された札幌オリンピックの舞台となった大倉山ジャンプ競技場に相応しい、オリンピック・パラリンピックについて学べる博物館なのである。

また、2020年6月には、ミュージアムショップがリニューアルした。さらに特別展や総会、イベントなどで利用できるスペースとミュージアムレストラン、カフェなどを兼ね備えた別館の「札幌オリンピックミュージアムアネックス」も同時にオープンし、オリンピック・パラリンピックの世界を楽しむ施設としても利用できる。

当ミュージアムは、国際オリンピック委員会（以下IOC）内の「オリンピックミュージアムネットワーク」に加盟したことを受け、IOCの公式施設となったことで、加盟する各国のオリンピック博物館と所蔵品の貸し借りができることとなった。

さらに、全世界のオリンピックミュージアムをネットワーク加盟国でつなげることにより、オリンピックの普及と子どもたちのスポーツへの関心を高める目的とした意見交換も活発的に行っている。



リニューアルした
札幌オリンピックミュージアム“アネックス”

このような連携を基に、当ミュージアムでは、学芸員を中心に札幌市や教育委員会、オリンピック選手やパラリンピック選手とタッグを組んで、市内の小学校3年生を対象にオリンピック・パラリンピック教育を実施している。札幌ならではのレガシーを学芸員から伝え、各選手からオリンピックの価値やパラリンピックの価値を継承し、翌年開催する東京オリンピックや将来へ向けた札幌オリンピック招致へとつなげるため、当ミュージアムは更なる進化し続け、次世代への教育に力を注いでいきたい。

なお札幌を訪れた際には、オリンピックのすばらしさを感じることできる当ミュージアムを、

ぜひ訪れてほしい。

(札幌オリンピックミュージアム 山谷和正)

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

「もくもく会」開催

令和2年7月30日(木)八雲町公民館にて、南北北海道の文化財部会「もくもく会」が開催されました。道南ブロックでは「南北北海道の文化財」というウェブサイト进行管理・更新しています。このウェブサイトでは公立はこだて未来大学の協力を得ながら、道南渡島・檜山地方にある建物や石碑などの文化財をGoogle mapを使用して紹介しています。(道博協ニュース第118号参照)近年、学芸員の世代交代や新規会員も増えてきたことから、会員が集まり情報交換をしながら、ウェブサイトの更新作業を“黙々”と行いました。8月12日現在の登録数は633件で、今後も増やしていく予定です。碑に刻まれた碑文のほかにもその碑に関する歴史について参考文献を見ながらマップに追加しました。史跡の紹介では、歴史資料の画像も載せて当時の状況を説明するなど各学芸員が工夫を凝らして作成していました。会の最後にはその日の成果や今後の課題・展望などについて意見交換をしました。一般の方が見やすいサイト作りを目指していくことや、石碑の碑文や資料などの著作権の確認の必要性などが話し合われました。このウェブサイトを観光に活用して観光客にも道南各地の歴史を知ってもらえる機会になればと思いました。

(URL <http://donan-museums.jp/>)



研修会の様子



歴史資料を活用した解説

(市立函館博物館 内田彩葉)

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

私設資料館

「三平皿・古民具の館」オープン

「自慢するものが何もないと言うのが自慢の資料館！」として、令和元年5月に開館した私設資

料館です。

館の名前にある三平皿がメインの展示です。なぜ三平皿かと言いますと、様似郷土館勤務時代に様似町近隣で年に1週間ほど(12月)しか獲れないハタハタを頂いた時に、夕食は三平汁でした。どんぶりに入った汁をすすりながら「何かが違う」と思ってしまいました。少なくとも昭和時代、三平汁は三平皿で食べる、それが当たり前だったか

らです。家の中を探してもどこにも見当たりませんでした。そこで、「三平皿の展示会を開催するので、三平皿を貸してください」と広報チラシで町民に呼びかけたのですが、ほとんど反応がなかったのです。それ以来、ネットオークションや骨董屋などに通い380種ほどを収集しました。三平皿は、明治から昭和にかけ本州から持ち込まれ、道内各地に流通しました。本州では「なます皿」として使用され、直径14cm前後、高さ4cm前後で縁が波打っているのが特徴です。一枚一枚デザインが異なり、時代背景も見えてきます。絵柄は多種多様で、手書きや印判といった絵付け



方法の違いや、藍色一色の「染付」、二色以上の鮮やかな「色絵」などがあり、いくら収集しても飽きることはありません。

三平皿の他にも、全国各地の骨董屋などをまわり集めた古民具や20年以上前から浜を歩き拾い集めた漂着物、砂金掘り用具、火箸、薬箱等々、捨てられがちな古い生活用具にも、さまざまな楽しみ方があることを伝えるために開館した何でもありの資料館です。

ほとんど、一人で管理していますので、不定期で閉館している場合も多くあり、事前に連絡をお願いしています。開館時期は5月初旬から10月下旬まで、開館時間は午前10時から午後4時で月曜休館。入館無料です。

〒058-0015 様似町錦町 41-7

電話 090-9088-1618

e-mail: sanpeizara@gmail.com

(三平皿・古民具の館 館長 田中 正人)

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

第28回道北地区博物館等連絡協議会巡回展「森を支えるきのこ」開催

第28回道北地区博物館等連絡協議会巡回展「森を支えるきのこ」展では、令和元年に富良野市博物館・士別市立博物館が2館共同で製作・展示を行った同名の特別展をベースに、解説パネル等を展示します。動植物の分解・植物への栄養供給など、生態系の中で重要な役割を果たしているきのこなどの菌類をはじめとする地域の生物相を学ぶことで、地元の自然に親しみ、守り、後世に残していくことの大切さを伝えられるような内容となっており、展示パネルは以下の4章から構成されています。

第1章 「きのこ」ってなあに？

第2章 「菌類」ってなあに？

第3章 生態系を支える菌類～植物とのパートナーシップ～

第4章 生態系を支える菌類～分解という役割～

巡回展の準備にあたり、例年展示パネル等一式を用意し、開催地を巡回するという形をとっていましたが、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、完成済みの展示パネル等一式を巡回する方法と、展示パネルのデータ(DVDディスク)のみを郵送等により巡回し、そのデータからパネルを準備する方法の2通りの巡回方法をとることとなりました。そのような実施にはなりませんが、富良野市博物館から、同館が収蔵する貴重な資料やパネル、パネルのデータの提供、展示構成等についての助言をいただき進めました。開催期間は令和2年7月25日(土曜日)から令和2年11月頃(日程未定)までとなっており、これまでに上富良野町郷土館、苫前町公民館を巡り、現在は下川町公民館(9月17日(木曜日))から9月30

日(水曜日)まで)、旭川市科学館(9月17日(木曜日)から10月4日(日曜日)まで)で開催中です。今後は美瑛町郷土学館(10月5日(月曜日)から10月18日(日曜日)まで)、美深町文化会館 COM100(10月19日(月曜日)から10月31日(土曜日)まで)、オホーツクミュージアム えさし(11月頃(日程未定))を巡回する予定です。



富良野市博物館での展示の様子

(旭川市博物館 藤原ふく美)

オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

オホーツク管内博物館連絡協議会へ 改名、事務局も移管し新組織で新たにスタート

新型コロナウイルス拡大防止対策により令和2年5月12日付、書面での総会を通じて、昭和62年3月の発足(会長三代川幹夫網走教育長)以来、30年以上の間慣れ親しんだ「網走管内博物館連絡協議会」を「オホーツク管内博物館連絡協議会」へ名称を変更しました。

さらに、改名にともない会長及び事務局も網走市から北見市へと移すとともに、事業内容の見直しを行い、開催する研修の充実と学芸員の資質向上を目的に新たに活動助成制度を創設し管内の博物館をはじめ美術館、資料館等の活性化を図ります。

長きに渡りオホーツク管内の博物館や美術館、そして資料館等の先頭に立ちリードしてこられた網走市立郷土博物館の米村衛会長のこれまでの尽力に敬意を表するとともに厚く御礼申し上げます。

発足当初からの目的である各博物館の情報や資料の交流、合同職員研修、共同研究などの取組を通して米村会長が築きあげてこられた功績に恥じぬよう精進し、後世へと引き継いでまいりたい

いと気を引き締めているところであります。

また、発行していた機関誌名も「とびだせ網博協!」から「翔けオ博協!」へと名を変え、より身近な情報誌になるよう心掛け、副会長の大平祐一紋別市立博物館館長を中心に、そして今年度から東京農業大学オホーツクキャンパスでも教鞭を振るうことになった柳谷卓彦事務局長とともに発行してまいります。

新たなメンバーで心引き締めオホーツク管内の博物館や美術館そして資料館、並びに北海道博物館協会の益々の発展に取り組んでいく所存でありますので、旧網走管内博物館連絡協議会のとくと同様に新たなオホーツク管内博物館連絡協議会の方も皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

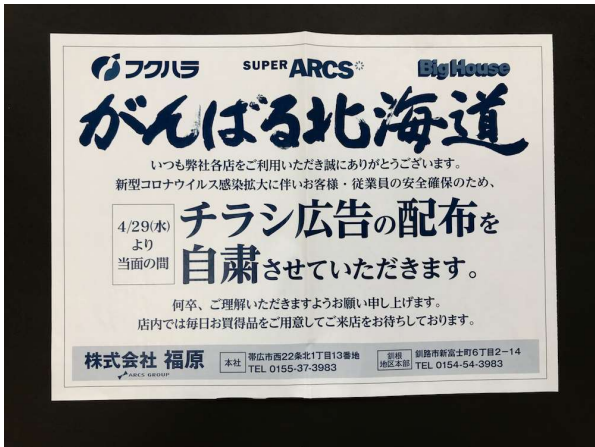
(北網圏北見文化センター 館長 長谷川和義)



北網圏北見文化センター

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

「コロナな時代」をモノで記録する



新型コロナウイルスの世界的な流行にともない、生活、産業、教育など、あらゆる面で社会が大きな変化を強いられることとなった。この未曾有の事態に、博物館が果たすべき役割とは何か？

2016年に当館で開催した博物館講座で、講師の石川直章学芸員（小樽市総合博物館長）が語った『「今」を集める博物館：記録する地域博物館の役割』を思い出す。博物館は昔の古いものを集めるばかりではない。刻一刻と歴史化している日常を、モノとして記録していく役割があるという。ならばいまこそ、その実践のときではないか？

混乱する世相に生きる、市井の人々の「素の暮らしぶり」を記録する使命が、地域博物館にはあると思う。世界的感染症は差別や貧困を生みやすい。教科書的な、権力に都合のよい記録だけでなく、そうした暗い世相の一断面も記録したい。

ではいったい何を収集すべきか？模索しつつ集めまくった資料の大半は、「こんなものが博物館の資料なのか？」と呆れられるような、日々生まれては消えていくチラシやポスターの山となった。

振り返れば、100年前のスペイン風邪の大流行に際して、世界の博物館は当時の市民生活をうまく記録できていなかった。イギリスの博物館界はこの反省に立ち、今回、いち早く資料の保全に乗り出している。日本の博物館や図書館、文書館にも、この点に気づいた人達が少なからず存在し、全国各地で地道な収集を続けている。

「どのように活用できるのか？」は、いま考える必要はない。渦中にある今集めておかなければ、二度と目にすることのない資料の確保こそが急務なのである。博物館の役割は「1に収集、2に保存」であり、「何にどう使うか？」は、後世、それを使う誰かに委ねれば良いのだから。

(浦幌町立博物館 持田 誠)

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

「ちょこっと見てみる？」

サケふるナマ Live」始動

サケのふるさと千歳水族館ではこの秋も、産卵回帰したシロザケ、カラフトマス、ベニザケの親魚の展示を始めました。今シーズンは、千歳川のサケの遡上も出だしから好調で、現段階で昨年よりも3割ほど多く、既に3万匹ほどのサケがインディアン水車で捕獲されています。

そんなサケの展示や遡上で賑わう千歳水族館には、9月の訪れとともにサケの姿を一目見ようと、来館するお客様が増えています。皆さまの一番のお目当ては「千歳川水中観察窓」から、自然の川を遡上してきたサケの姿を見ることです。しかし野生の生き物との出会いや自然相手に

「絶対」や「必ず」はありません。シーズン中であってもサケの姿が見られないこともあります。そこで来館されるお客様に、今の季節の千歳川を遡上するサケの様子や、どんな生き物と出会える可能性があるのかなどの情報をできるだけ正確にお伝えするために「ちょこっと見てみる？」サケふる“ナマ Live”配信を開始しました。カメラを持った飼育スタッフが、水中観察窓を1つずつ覗きながら、観察のポイントとともに、窓の前に姿を現した魚や生き物について解説します。予想外の生き物が突然登場したり、予定していた生き物が全く見られなかったりと、思うようにならないことがほとんどですが、それこそが自然の川の姿だと受け止めていただき、そのライブ配信を来館の参考にしたり、水中観察窓での観察に役立てたりしていただきたいと思います。今回のライブ配信は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館した時に開始したライブ

の設備や方法を利用し、新たな形に進化させたものです。これからも色々なアイデアで、新たなスタイルのライブ配信を実施していきたいと思えます。千歳水族館公式YouTubeでご覧いただけますので、ぜひチャンネル登録をお願いいたします。



千歳川水中観察窓の様子

(サケのふるさと千歳水族館 日原 俊)

学芸職員部会 NEWS

学芸職員部会オンライン研修会

を開催しました

令和2年9月24日(木)に学芸職員部会の研修会を開催しました。テーマは「資料の適切な保存と活かし方」。午前中に研修1として京都国立博物館保存科学室長降幡順子氏による「資料の適切な保存環境とカビ対策」を、午後から研修2&バーチャルエクササイズとして北海道教育大学岩見沢校教授能條歩氏と今金町教委の宮本雅通氏による「今金の地形と特産品巡検ツアー」を開催しました。本来は今金町に集まり、手を動かして学ぶ研修会を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防として、Zoomを用いたオンラインでの研修に変更しました。今回の研修は録画したものを会員に動画配信するため、内容はそちらを参照してもらおうこととし、ここでは運営した雑感を記します。

●オンライン研修は初めての人が多かったため、研修会の日より前に接続テスト用のミーティングを開催し、ある程度のトラブル解消をしたことが、当日の混乱を減らせたと思えます。

●当日ですが、自治体はインターネット分離の影響で外部と繋がりにくくなっていることから、ホストとなる運営は個人宅で個人の回線を用いて

行いました。司会を主に担当する人と、参加者のトラブル等に対応する人を分けて、現実でも話しながら進めたことで、スムーズに運営できたと思えます。

●研修を録画していました。自治体のPCでは処理能力が遅く、事前に行った1時間の会議は1時間かけて動画変換していましたが、個人のPCを使うことで2時間半の研修を40分ほどで変換できました。録画をする場合、PCの性能も考慮して日程を組まない、変換が終わらず次の会議が始められないこともありそうと感じました。



研修会の様子

(八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館 大谷 茂之)

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

メーリングリストで しなやかなネットワークづくり

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で道内の科学館はしばらく臨時休館となりました。科学館の魅力ともいえるハンズオン型の展示物やサイエンスショー、プラネタリウムは一転して感染リスクが高い取り組みとなり、展示物の管理をどうすべきか、そもそも開館すべきかどうか、それぞれの自治体・施設では判断が難しい状況でした。

そういった状況下で活躍したのは道科協メーリングリストでした。新型コロナウイルス感染症に関する投稿は北海道の緊急事態宣言があった2月下旬から6月上旬までに計61回ありました。間接的なものを含めるともっと多くの情報交換が行われました。最初は事業の縮小・中止や休館対応の判断について、その後は休館期間の延長や再開後の運営方法について各館から報告や質問が投げかけられました。メーリングリストでのやりとりは、形式ばった照会ではないので気軽に投稿できたことが積極的な活用につながったと考えます。

メーリングリストを立ち上げた時は、このような危機を想定していませんでしたが、横のつながりを育む仕掛けがいざというときに役に立つと

いうことを実感しました。また、情報を共有するシステムがあったとしてもうまく機能しない場合がありますが、それを生かせるかどうかはお互いの顔がみえる関係性があってはじめて機能することを再認識しました。

新型コロナウイルス感染症の収束まで先が見えず不安はぬぐえませんが、科学館として今できること・やるべきことを模索していくためにも、これからも加盟館同士の交流を大切に、いざとなったら気軽に話し合えるしなやかなネットワークでこの危機を乗り越えていきたいと思います。



ロボット達も2m空けてソーシャルディスタンス

(札幌市青少年科学館 木野 翠)

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

「with コロナ」における学校との連携

本稿では、5月26日の再開館以来、北海道立釧路美術館が取り組んできた「with コロナ」の教育事業について、教育機関と連携した取り組みに焦点を当てて紹介させていただきたいと思っております。

当館では、5月に、動画制作において、北海道教育大学佐々木宰教授の研究室と連携する試みを行いました。動画作成を協働してくれたのは、同校放送局の木田美也子さん。ステイホームの時期でしたので、当館学芸員が撮影した作品解説動

画のデータを郵送でやり取りし、音声やキャプション挿入を含めた編集を木田さんが実施。「荒川好夫写真展」「栗谷川健一ポスター展」「池田良二版画展」の3本の展覧会で、合計9本(各3分)の動画は、ほとんど徹夜状態で取り組んだ力作。「Hokkai・Do・画」のページからご覧いただけます。

また、今月9月4日には、釧路工業高等専門学校で建築を学ぶ3年生38名を対象に、「毛綱毅曠の建築脳」展観覧と当館の施設見学をくみあわせた連携授業を実施しました。同校との連携授業は初めての試み。釧路市郊外の大楽毛から美術館までの交通機関をどうするか、密にならないためにはどうしたらよいかなどを検討。学校祭などの行

事が軒並み中止になる中、美術館での建築展の観覧は生徒たちに大きな意味があるという同校の判断をいただき、同校の予算でバスを手配し学校と美術館を往復してもらいました。当館では生徒を2グループに分けて、展覧会観覧と施設見学を途中で入れ替える方式で連携授業を実施。適切な距離を保ち、感染予防対策に留意しながら、無事に授業を終えることができました。

感染症が心に影を落とすなかではありますが、学校教育機関と連携し、若い世代にアートで心を豊かにしてもらおう試みを続けたいと考えています。



ボイラー室で解説を聞く高専の生徒たち

(北海道立釧路芸術館 井内佳津恵)

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2020年10月～2021年3月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
10/11	子どもワークショップ「糸電話で、もしもしコンニチハ」
10/18	ミュージアムカレッジ「島にキツネを放つ」
10/24	古文書講座「はじめての古文書講座 第1回」(全10回)
10/25	子どもワークショップ「アイヌ音楽 たのしいな♪アイヌ音楽うたおう・おどろう」
11/3	特別イベント「アイヌ音楽ライブ マレウレウコンサート」
11/7	古文書講座「はじめての古文書講座 第2回」(全10回)
11/15	子どもワークショップ「稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！」
11/21	古文書講座「はじめての古文書講座 第3回」(全10回)
11/29	ミュージアムカレッジ「建物を通してみる、サハリンに残る『樺太』」
12/5	古文書講座「はじめての古文書講座 第4回」(全10回)
12/6	子どもワークショップ「貝の化石で標本をつくろう！」
12/13	ミュージアムカレッジ「アイヌの物語を聞いてみようーカッパの神様登場ー」
12/20	ちゃれんがワークショップ「博物館で新年祈願！？ 日本の画材で絵馬づくり」
1/10	ミュージアムカレッジ「北海道の正月料理」
1/16	古文書講座「はじめての古文書講座 第5回」(全10回)
1/17	子どもワークショップ「雪のなかで宝さがし」
1/23, 24	ちゃれんがワークショップ「野鳥のつばさの標本をつくろう！」
1/30	古文書講座「はじめての古文書講座 第6回」(全10回)
1/31	特別イベント「博物館のウラ側を見てみよう」

2/7	ミュージアムカレッジ「アイヌの英雄叙事詩を聞くーうたと言葉」
2/13	古文書講座「はじめての古文書講座 第7回」(全10回)
2/14	子どもワークショップ「はじめての草木染め」
2/21	ミュージアムカレッジ「近世における『アットゥシ』の地域差と流通」
2/27	自然観察会「動物の足跡を解説しよう」
2/27	古文書講座「はじめての古文書講座 第8回」(全10回)
3/6	ミュージアムカレッジ「一枚の選挙ポスターから見る、アイヌ民族と選挙の歴史」
3/7	ちゃれんがワークショップ「アイヌ民族の耳飾りをつくろう！」
3/13	古文書講座「はじめての古文書講座 第9回」(全10回)
3/21	子どもワークショップ「画材のふしぎー貝殻からつくられる白い絵の具ー」
3/28	古文書講座「はじめての古文書講座 第10回」(全10回)

小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
8/6～11/29	企画展「近代詩文書の父 金子鷗亭展」
10/10	ギャラリートーク 講師：毎日展審査会員・墨痴会主宰 平田鳥閑先生
11/14	ギャラリートーク 講師：毎日展審査会員・すみれ会主宰 大川壽美子先生
12/8～3/31	企画展「犬養毅と昭和政治家の書展」
12月	ギャラリートーク 講師：未定
1月	ギャラリートーク 講師：未定
2月	ギャラリートーク 講師：未定
3月	ギャラリートーク 講師：未定

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
9/4～10/5	企画展「石狩浜の百年記念塔」
1/4～3/28	企画展「資料館のお宝2021」

北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 (011-373-0188)

期間	タイトル
10/3～11/1	ミニ企画展「蔵出し展～まだ見ぬ収蔵物～時代を超えて音楽を楽しむ編」
10/10～10/18	イベント「史跡旧島松駅通所ライトアップ～秋編～」
11/21～2/23	企画展「(仮) 開拓者たちの足跡」

恵庭市郷土資料館 (0123-37-1288)

期間	タイトル
10/10	まつり「第7回カリンバまつり(石器作り・勾玉作り)」
12/5	講演会「第7回カリンバ講演会 北方四島の遺跡と擦文文化」

札幌オリンピックミュージアム (011-641-8585)

期間	タイトル
10/17 予定	普及行事「ノルディックウォーキングイベント」

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
8/7～10/4	常設展「アーカイブ「アイヌ絵巻と文学」」
8/22～11/15	特別展「作家たちの交差点ー「北の話」が残した時間」
10/4, 11/8, 12/20,	絵本の読み聞かせ「わくわくこどもランド」

2/7, 3/7	絵本の読み聞かせ「わくわくこどもランド」
10/8, 12/10, 3/4	朗読会「月例朗読会『北の響 名作を声にのせて』」
10/20～12/20	常設展「アーカイブ『大本靖 四季の風景』」
11/3	朗読会「古典の日記念朗読会」
11/22	映画鑑賞「真白き富士の嶺」
12/12～3/7	ファミリー文学館「おいしい! 美味しい!! 文学」
1/19～3/14	常設展「アーカイブ『書で味わう文学』」
2/21	映画鑑賞「そよかぜ」
4/1～3/31	常設展「北海道の文学」

空知

月形樺戸博物館 (0126-53-2399)

期間	タイトル
未定	未定

赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設 (0125-74-6505)

期間	タイトル
未定	未定

後志

木田金次郎美術館 (0135-63-2221)

期間	タイトル
7/3～11/3	特別展「アイヌ語地名と木田金次郎」
10/3～10/25	企画展「岩内高校創立100周年記念『緑陰会を巣立った若手たち』」

余市水産博物館 (0135-22-6187)

期間	タイトル
8/8～12/6	複合的事業「会津藩 余市入植150年」
～12/6	特別展「土器、大総選挙」

京極町生涯学習センター湧学館 (0136-42-2700)

期間	タイトル
特になし	特になし

渡島

北海道立函館美術館 (0138-56-6311)

期間	タイトル
10/3～11/29	リサ・ラーソン展 創作と出会いをめぐる旅
10/3, 10, 31 11/21, 28 各日14時～	ギャラリー・ツアー
10/11 11/1, 22 各日10時30分～	キッズ・ツアー

12/5～1/31	色もよう心もよう
2/6～3/31	海と山との対話

市立函館博物館 (0138-23-5480)

期間	タイトル
7/11～10/18	企画展「津軽海峡北岸の縄文遺跡」
10/4	講座「函館公園満喫歴史ツアー」
10/11, 10/18, 10/25	講座「体験！ 日本画講座」
10/17	講座「秋の函館公園・函館山自然観察会」
1/22	講座「冬の函館公園・函館山自然観察会」
3/19	講座「忘れない！ 函館大火」

函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

期間	タイトル
10/3	観察「秋の自然観察会」
11/7	普及事業「縄文時代の石器をつくろう！」
11/21	普及事業「秋の縄文染め～自然の植物で布を染めよう～」
1/9, 10	普及事業「縄文体験・鹿角アクセサリーづくり」
2/13	普及事業「令和2年度遺跡調査報告会」
3/23～31	普及事業「縄文クイズラリー」

胆振**苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)**

期間	タイトル
10/10～12/13	企画展「紙とアート：吉田傑 ダンボールといきもの」
10/10～12/13	企画展「八王子千人同心と蝦夷地」
10/10～12/13	中庭展示「Vol.15 磯崎道佳」
1/9～3/7	企画展「総天然色！考古資料のあざやかな世界」
1/9～3/7	収蔵品展「色と絵」

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

期間	タイトル
9/19～11/8	展示会「開館40周年『アイヌ民具』ロビー展」

日高**アポイ岳ジオパークビジターセンター (0146-36-3601)**

期間	タイトル
9/16～10/31	ミニ企画展「コンドライトとコマチアイトを見てみよう」
11/14	普及事業「カン×カン講座 かんらん岩ストラップ作り・隕石を見てみよう」

えりも町郷土資料館・水産の館 (01466-2-2410)

期間	タイトル
10/31 または 11/1	猿留山道を歩く会

沙流川歴史館 (01457-2-4085)

期間	タイトル
10/1～11/29	特別展「知ってみよう！やってみよう！はじめての考古学」
11/1	講座「平取町内の発掘調査でわかったこと、伝えたいこと」

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (01457-2-2892)

期間	タイトル
10/1～11/29	特別展「沙流川流域のウエペケレ」
11/14	特別展関連講座「沙流川流域のウエペケレ」

上川

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

期間	タイトル
9/12～11/1	特別展「北の水彩」
9/12～11/1	常設展「旭美・この一点一黒田辰秋《神代櫛彫文飾棚》」
10/4	こども工作ワークショップ「カラフル魔法の折り染め飾り～水彩の美しさ」
10/10	講座「佐藤進と北海道の水彩画」
10/14, 21, 28	講座「欠けた器を直す金継ぎ講座」
1/9～3/31	特別展「「木」と「あそび」美術館」
1/9～3/31	常設展「荒井善則展 無意識が世界を版にする」

旭川市博物館 (0166-69-2004)

期間	タイトル
11/3～12/27	第90回企画展「懐かしの映画ポスター展～旭川劇場史を添えて」 (仮)

旭川兵村記念館 (0166-36-2323)

期間	タイトル
～10/25	特別展「第二の開拓一客土のあゆみ」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)

期間	タイトル
10/3～12/13	企画展「中原悌二郎賞創設50周年記念展 ブロンズの微笑～笹戸千津子展」

オホーツク

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

期間	タイトル
10/10	はくぶつかんクラブ「動物刺繍のマイバッグ」
10/31	はくぶつかんクラブ「トンコリを演奏してみよう」
11/7	はくぶつかんクラブ「北方民族の太鼓をつくろう」
11/13	講習会「物語を紡ぐラトビアの伝統模様：刺繍とお守り作り体験」
11/14	講座「ラトビアの伝統文化と現在の暮らしに触れる」
11/22	講座「知ろう！学ぼう！二風谷のアイヌ文化」

11/28	講座「日本とアラスカ先住民の歴史」
12/5	はくぶつかんクラブ「皮でつくるトラベルタグ」
12/13	上映会「北方民族博物館シアター 冬」
1/5～1/24	ロビー展「オホーツクシリーズ⑭ 北の状景から」
1/16	講習会「初めての歩くスキーツアー」
1/23	はくぶつかんクラブ「かんじき体験」
2/6～4/4	企画展「"アマゾン博士"の北方紀行：山口吉彦氏旧蔵・北方民族コレクションより」
2/6	講演会「アマゾン民族館と北方民族資料」
2/20	はくぶつかんクラブ「ビーズおり体験」
2/28	講座「企画展解説講座」
3/6	はくぶつかんクラブ「北の動物で簡単ホワイトボードづくり」
3/13	講座「川西オホーツク遺跡の再検討」

北海道立オホーツク流水科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
10/2～10/29	第6回 木の香りこがし絵展
10/3	ビーチコーミング
11/3～11/29	こしのゆきのり手づくり絵本作品展
12月上旬～2月上旬	コムケ写真展～コムケ案内人が出合った自然風景～
12/3～12/26	巡回パネル展「海と生きものとわたしたち～3.11からの復興をめざして～」
2月上旬～2月下旬	紋別歌人会流水短歌展—オホーツクの海・流水を詠む—

博物館 網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
8/1～12/31	企画展「網走刑務所開設 130年記念企画展 ～刑務所の今～」
10/1	年中行事「十五夜」
10/18	友の会事業「文化財保護強化月間 博物館友の会ボランティアによる重要文化財イベント」
11/15	体験講座「館内の植物でハーバリウムを作ろう」
11/29	体験講座「軟石でクリスマスオーナメントを作ろう」
12/6	体験講座「正月に飾るしめ縄を作ろう」
1/7	年中行事「七草粥と絵馬作り」
1/11	年中行事「鏡開き」
1/16, 17	体験講座「節分に使う鬼のお面を作ろう」
2/1～3/31	収蔵資料展「博物館網走監獄収蔵品展」
2/3	年中行事「節分」
2/21	体験講座「折り紙でつるし雛を作ろう」
3/3	年中行事「ひな祭り」
3/7	体験講座「菰編み機でコースターを作ろう」

北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

期間	タイトル
1/16～3/7	特別展「(仮称)糖業協会コレクション展」

ところ遺跡の森 (0152-54-3393)

期間	タイトル
3月(予定)	講座「ところ遺跡の森考古学講座」

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

期間	タイトル
10/3～10/25	特別展「アートとの対話 森迫暁夫『ぜんぶぶぶん』展」
10/3	体験教室「アートとの対話関連イベント『新聞シルクスクリーンでオリジナルのトートバッグをつくろう』」
10/18	体験教室「子ども考古学体験『石器作り体験』」
11/1	体験教室「子ども考古学体験『火おこし体験』」
11/15	講座「番屋講座『昔の遊びをみんなで体験しよう』」
11/21～12/13	「北海道写真協会紋別支部写真展」
12/13	講座「博物館講座『鹿角ハンガー作り』『鹿角キーホルダー作り』」
1/10	講座「番屋講座『百人一首といろはカルタ』」
1/24	体験教室「子ども考古学体験『縄文土器作り体験』」
3/13～3/28	「第16回博物館サークル活動作品展」
3/14	講座「番屋講座『昔なつかし街頭紙芝居と飴細工』」

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
～11/29	特別展「写真家 前川貴行の生き物バンザイ！」
～11/29	ロビー展「海がないのにナゼ？びほろの海鳥とオホーツクのアホウドリ」
10/16, 17	プチ工房「ハロウィンのがま口ポーチ」
10/24	体験会「松浦武四郎の足跡を巡る」
11/13, 14	プチ工房「糸かけアート」
11/21	講演会「北海道の軟石文化～これまでとこれから～」
12/5～1/17	企画展「おひろめコレクション展」
12/18, 19	プチ工房「お正月の団子かざり」
1/8, 9	プチ工房「ウシのメモスタンド」
1/23	イベント「みどりの村雪の遊び広場記念行事」
2/6～3/7	企画展「冬季作品展」
2/13～3/3	ロビー展「ひなまつりとひな人形」
2/19, 20	プチ工房「モザイクタイルのコースター」
3/26, 27	プチ工房「バードコール」
3/27	講演会「私たちのふるさと情報」
3/27～10/24	特別展「びほろのあけぼの～旧石器時代の遺跡～」

十勝

浦幌町立博物館 (015-576-2009)

期間	タイトル
10/2～10/11	企画展「帯広百年記念館移動展『小坂俊昌：ふるさと文化写真展』」
10/18	移動博物館講座「列車で巡る史跡・文化財」
12/5	シンポジウム「博物館を考える」
12/5～1/17	企画展「外来生物展」
12/26	コンサート「クリスマス讃美歌コンサート」
2/6	講演会「卒業論文大発表会」
2/27～4/11	企画展「コロナ関係資料展」

上士幌町ひがし大雪博物資料館 (01564-4-2323)

期間	タイトル
10/1～10/31	ロビー展「十勝石展」
10/3	体験型事業「十勝三股の自然に触れる集い」
10/4	親子自然観察会「十勝石観察会」
10/18	自然観察会「地形と地質編」
11/1～3/31	企画展「東大雪の冬鳥展」
11月～3月の第3日曜日	体験型事業「バックヤードツアー」
2/1～3/31	ロビー展「自然館写真展」
2/6	自然観察会「動物編（足跡）in 糠平」
2/13	自然観察会「動物編（足跡）in 十勝三股」
2/21	自然観察会「野鳥編（ワシタカ）」

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)

期間	タイトル
9/11～11/15	「神田日勝没後 50年 躍動する十勝の美術作家展」
11/19～4月中旬	「2020年度コレクション展」
年3回	ワークショップ
年4回	アート・キッズ・クラブ

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)

期間	タイトル
9/19～12/6	特別展「蜷川実花展—虚構と現実の間に—」
9/19～12/6	コレクション・ギャラリー「旅立ち—作家たちの青春」
10/10, 11/21	ギャラリー・ツアー
10/24	キッズ・ミュージアム「ハロウィン★コスチューム」
11/1～11/7	芸術週間
12/19～3/21	特別展「池田緑展」
12/19～3/21	コレクション・ギャラリー「イマジネーション—日常の彼方に」
12/19	アーティスト・トーク／トーク&レクチャー
12/20	トーク&レクチャー
1/9	オビビ・キッズ・アートフェスタ
1/16, 2/20	特別展セミナー
2/13	ワークショップ
2/27	キッズ・ミュージアム「冬のまんげきょう」
3/13	キッズ・ツアー

忠類ナウマン象記念館 (記念館 01558-8-2826 幕別町教育委員会生涯学習課 01558-8-2201)

期間	タイトル
8/29～11/3	展覧会「忠類ナウマン象化石里帰り展示」
10/3～11/3	展覧会「忠類ナウマン象化石発掘 50周年記念 特別展」
10/10	行事「忠類ナウマン象化石発掘 50周年記念 ホンヤミカコオカリナコンサート」
10/19～22, 10/26～28	事業「ナウマン象足跡発掘プロジェクト」

広尾町海洋博物館 (博物館 01558-2-5572 広尾町教育委員会社会教育課 0155-2-0181)

期間	タイトル
11/1～11/3	海洋博物館無料開放

釧路**釧路市立博物館 (0154-41-5809)**

期間	タイトル
10/3～12/6	企画展「織る×編む シタイキ・オシケ・テセ～釧路地方に伝わるアイヌ女性の手仕事～」
10/3	体験講座「こすって写す土器文様～カラー拓本体験」
10/18, 11/15	観察会「春採湖畔探鳥会」
10/18	講演会「釧路の甲虫講演会(仮)」
10/24	講演会「製作技術から探るアイヌの編物ー刀帯と荷縄」
11/1, 11/15	講演会「学芸員トーク」
11/3	体験講座「黒曜石ナイフは切れるかな?切ってみよう!」
11/21	体験講座「木の皮繊維のお守りストラップ作り」
12/12～2/28	企画展「雄別炭砒閉山50年」
12/12～1/24	企画展「春採湖パネル展(仮)」
12/26(予定)	体験講座「おそなえもちをつくろう」
1/9	体験講座「まが玉を作ろう」
1/30～2/28	企画展「写真展『石炭列車』(仮)」
2/20	観察会「冬のいきもの観察会」
3/6～4/4	企画展「第26回タンチョウイラスト展」

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
7/18～10/11	共催「記憶を結び、共生の未来をイメージする。没後20年 毛綱毅曠の建築脳」
9/12～10/11	主催「道立芸術館&市立美術館 建築でくめぐる×つくる くしろの街」
10/3	主催「くめぐる×みる×きく×つくる」毛綱毅曠&フェルメールの旅 第2回ミニトーク付き」
10/4	主催「毛綱毅曠の建築脳 トーク&ウォーク」
10/10, 11	主催「『毛綱毅曠の建築脳』展 ギャラリーツアー」
10/31	主催「『ビーズのはなやぎ・刺繍の美』展 オープニングツアー」
10/31～1/20	主催「紡ぐ心と暮らし ビーズのはなやぎ・刺繍の美～北海道立北方民族博物館コレクション」
11/7	主催「ミュージアムコンサート」
11/8, 14, 22 12/5, 13 1/9, 17	主催「『ビーズのはなやぎ・刺繍の美』展 ギャラリーツアー」
11/11, 18, 25	主催「大人の家庭科&お気軽アート教室」 ※テーマ別の3講座
11/21	主催「アートシネマ館『信さん 炭坑町のセレナーデ』」
12/1～1/20	主催「ビーズと刺繍・ワークシートに挑戦!」
12/12	主催「アートシネマ館『サンタクロースになった少年(日本語吹替)』」
未定	主催「冬のキッズアトリエ」
1/16	主催「アートシネマ館『ひつじ村の兄弟』」
2/6～4月上旬	主催「所蔵品展」

2/6～4月上旬	主催「木島誠悟・絵本のひみつ」
2/27	主催「アートシネマ館『ボブという名の猫 幸せのハイタッチ』」
3/4, 11, 18	主催「大人の寺子屋ー美術の時間ー」 ※テーマ別の3講座

釧路市こども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
10/17, 11/14	普及行事「天体観測会『星空キャラバン』」
10/24, 25	企画展「ハロウィンイベント『Happy Halloween!』」
11/28～12/25	企画展「クリスマスツリー点灯」
12/19, 20	企画展「クリスマススペシャル」
1/4, 5	企画展「冬休みイベント（仮）」
1/10 予定, 2/7 予定	普及行事「太陽観測会『太陽の素顔を探れ!』」
1/10	企画展「ジオ・フェスティバル（仮）」
2/27, 28	企画展「ひなまつりスペシャル」
3/25～4/5	企画展「春休みイベント」

標茶町博物館 (015-487-2332)

期間	タイトル
9/5～10/31	企画展「改めて！縄文の脚付き土器と漆塗り櫛の世界」
10/18	体験講座「まが玉づくり講座」
10月予定	体験講座「クルミキャンドルを作ろう」
3月予定	企画展「しべちやの自然ベストショット」

厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)

期間	タイトル
9/7～10/2	巡回パネル展「星座展～ギリシャ神話からキトラ古墳まで～」

弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館 (弟子屈町教育委員会社会教育課 015-482-2948)

期間	タイトル
特になし	特になし

根室**根室市歴史と自然の資料館 (0153-25-3661)**

期間	タイトル
未定	未定

事務局からのお知らせ	
<p>■会費納入のお願い</p> <p>当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。</p> <p>【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店 （普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】 【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】</p>	
<p>■北海道博物館協会ホームページ http://www.hkma.jp/ ■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 http://www.hk-curators.jp/</p>	
<p>道博協ニュース 第 127 号</p> <p>発行日 2020 年 10 月 3 日</p> <p>発行者 北海道博物館協会</p>	<p>北海道博物館協会事務局</p> <p>〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内</p> <p>電話：011-898-0456</p> <p>メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com</p>